

# 京都市民の宗派意識

加藤 信孝

一

京都市における宗派別の仏教寺院数を挙げると次のようになる(表1)。

さらに明治時代にさかのぼってみてもほぼ同じほどの仏教寺院数があり、宗派別分類も現在と大差はない(表2)。ところで東西本願寺、知恩院などの各宗本山総数は日本でも一番多く集っているが、京都市の寺院総数は、他の地域と比較して、どのようになるだろうか。いわゆる仏教寺院密度を計算してみると表3のようになる。

表1 京都市宗派別寺院数

宗 派	寺数	%
浄土宗 (含黒谷派)	396	26.0
浄土宗 (西山派)	159	10.4
真宗	288	18.9
日蓮宗	221	14.5
臨済宗	228	15.0
曹洞宗	41	2.7
黄檗宗	14	0.9
真言宗	88	5.8
天台宗	71	4.7
時宗	16	1.1
計	1522	100

『昭和48年度京都府宗教法人数調』  
京都府総務部文教課により製表。

表2 明治16年「寺院明細帳」  
の内容

宗 派	寺数	%
浄土宗 (鎮西派)	378	24.9
浄土宗 (西山派)	120	7.9
真宗 (含高田派)	274	18.1
日蓮宗	219	14.4
臨済宗	290	19.1
曹洞宗	29	1.9
真言宗	102	6.7
天台宗	70	4.6
時宗	25	1.6
黄檗宗	9	0.6
法相宗	1	0.1
計	1517	100

竹田勝洲『民俗仏教と祖先信仰』  
昭和46年、東京大学出版会。

表3 仏数寺院密度

	全国平均	東京都	大阪府	京都府	京都市	山形県
面積比 (1平方キロにつき)	0.19 ケ寺	1.26	1.55	0.61	2.56	0.16
人口比 (千人につき)	0.77 ケ寺	0.32	0.60	1.22	1.09	1.02
(一ケ寺につき)	1,300人			793	943	

東京都、大阪府、山形県については、藤井正雄『現代人の信仰構造』昭和49年、評論社からの引用。京都府、京都市は『京都府宗教法人数調』京都府総務部文教課、昭和48年、『総理府人口統計』1973年10月1日に基づいて作製。京都府、京都市では単立寺院を除外して算出。

人口比については、明治以後、急激に人口が増大した東京・大阪などでは寺院密度が低くなり、逆に過疎地域では人口が減って、寺院がそのまま残るとすれば、千人あたりの人口比が高くなるのは当然である。これに対して、面積比によって比較してみると、東京は寺院密度一・二六、大阪は一・五五（一平方キロあたり）で、日本でもっとも高く、一・〇〇未満と密度の低い北海道・青森・秋田・山形・高知・鹿児島・宮崎と対照をなしている。したがって、京都市の二・五六という仏教寺院の占める密度は、市内の街路を歩けば、他の府県におけるよりも多くの寺院を見ることができるといふ視覚上の観点から、京都は宗教都市であるといふことができる。

次に宗派別でいえるのは何宗の寺院が多いかをみると、実数では浄土宗三九六ケ寺、真宗二八八、臨済宗二二八、日蓮系宗派二二一、西山系浄土宗一五九といずれも鎌倉系諸宗派が多くを占めている。このうち禅の臨済宗は、北区三九ケ寺、東山区五一、右京区七八、左京区三四であり、京都市ではマイノリティ・グループである真言系寺院が、北区一〇ケ寺、上京区一〇、左京区四、中京区六、東山区二一、下京区四、南区二〇、右京区一七、伏見区一六、の並列的な分布であるのとはかなり異っている。すなわち、臨済では北区の二七寺院が大徳寺派に属し、本山の塔頭寺院が多い。同様に、左京区では南禅寺派の寺院が三四ヶ寺中一八寺、東山区では、五一ヶ寺中、実に東福

表 4 臨濟宗及び真言宗の行政区別寺院数  
昭和48年，京都府調から。

	臨濟宗	真言宗
北 区	39ヶ寺	10ヶ寺
上京区	22	10
左京区	34	4
中京区	2	6
東山区	51	21
下京区	2	4
南 区	0	10
右京区	78	17
伏見区	0	16
計	228	88

一次産業部門に属する地域に建立され、更に農村に建立されているものだけでも、八、四六六ヶ寺、六一・二%を数えるという。同様に京都では少数でありながら、全国では一二、〇三四ヶ寺と曹洞宗に次ぐ寺院数をほこる真言宗は、農村寺院の占める割合が高い。高野山真言宗は、三、五四〇ヶ寺のうち六七%、智山派では二、八五二ヶ寺のうち六二%、豊山派では二、六六三ヶ寺のうち五〇%の割合といわれている（『日本の仏教界戦後の二〇年』、『現代日本宗教批判』中濃教篤、創文社、昭和四一年、一五五頁）。もちろん、すべての宗団でも農村寺院が全寺院数の中で占める割合はいくらか差はあっても高いだろうが、地方を票田ならぬ大教田とする曹洞や真言宗の寺院は京都市内ではあまり多くないのは事実である。

奈良系仏教寺院のほとんどない京都では、観光客へのサービスの役割は、文化財や美術品を多くもち、建造物自体が芸術的価値をもつ臨濟禪の寺院が担当している。しかし逆にいえば、それだけの文化財などを多くもっているのは、有力者や貴族階級と結びついて教線を張ったからで、庶民や市民を相手にする檀家寺としての歴史は極く短

寺派二六寺、建仁寺派二寺であり、右京区で七八寺中妙心寺派が五三ヶ寺である。臨濟禪宗の寺院が、本山とその周辺の塔頭からなっていることは、本山のみあたらない下京区や伏見区などでは、ほとんど臨濟寺院のないことでうらづけられる。またこの影響を直接受けたと考えられる曹洞宗は同じ禪宗でありながら、全国レベルでは、一四、七六三ヶ寺を数え、真宗につぐ大教団であるのに、市内では四一ヶ寺とまったく少数であり、教線は府下や地方が中心である。この内、一一、六二二ヶ寺、八三・九%が第

表5 主要宗派別寺院の京都市で占める割合

	全 国 (a)	京都市 (b)	b/a (%)
真 宗	22,418ヶ寺 (30.34) %	288ヶ寺	1.28
浄 土 宗 (含黒谷派拾世派)	7,041 (9.53)	396	5.62
西山系浄土宗	1,229 (1.66)	159	12.94
日蓮系諸宗派	5,996 (8.11)	221	3.69
	含日蓮宗 4,330		
臨 済 宗	5,343 (7.23)	228	4.27
曹 洞 宗	14,763 (19.98)	41	0.28
黄 檗 宗	478 (0.65)	14	2.93
時 宗	415 (0.56)	16	3.86
真 言 宗	12,034 (16.29)	88	0.73
天 台 宗	4,171 (5.65)	71	1.70
計	73,888 (100)	1,522	2.06

全国宗派別寺院実数は『宗教年鑑』昭和47年、文化庁、京都市実数は京都府調による。

いといえる。

京都市では前述のように浄土系三派（浄土宗・真宗・西山系浄土宗）と日蓮系宗派に属する寺院が多く、これらのうちたいていのものは、徳川幕府による檀越制度成立からはじまるもので、宗教統制の中に組み込まれ、民衆の動きを監視する役割をもっていたが、他方ではたえず民衆と接触し、これらの無名の庶民町人によって維持されてきた寺院であった、ということができよう。

この中でも日蓮宗は現在でこそ浄土宗や真宗に寺院数で劣っているが、一五〇〇年代の前期には京都で多くの町人の信者を獲得していた。法華の教義は、即身成仏を本位とし、現世の娑婆を寂光土たらしめんとするため、現世利益のための加持祈禱なども盛んに行なったので、現

世に執着することの多い都市の商業者をとらえた。さらにこの法華宗徒は、はげしい折伏の活動を示しただけに旧仏教や一向宗と対立した。一向宗は主として農村にひろまり、近江・越前・加賀に教線をひろめていたが、一向一揆を誘発させた。この一向一揆の勢力が畿内に及ぶと、法華宗徒と衝突するようになり、有名な天文の法華一揆が生じた。これは一向一揆の興盛に悩まされた細川晴元らによって、一向宗の対立物として利用せられたむきもあるといわれる。土一揆の延長線上にある一向一揆と対立した点では、農民の戦いに対して反動的役割を果たしたようであるが、京都の支配権を確立し、洛中地子銭の不払いを断行した点で、封建権力に対する民衆的抵抗を試みたといわねばならない（林屋辰三郎、『京都』岩波書店、一九六二年、一五七―八頁）。

以上のように、一揆をおこしたことで共通点をもつ、一向宗と法華宗は、徳川幕府の成立頃には柔軟になっていたとはいえ、幕府にとってなお要注意であると考えられた。それよりも、徳川家に密接な関係を持ち、そういった前科のない浄土宗の方が、ながく権力の中心であった京都において、最盛期には七、〇〇〇人をも数えたキリスト教対策に無難に用いられたのであろう。事実、京都の寺町、寺の内などの造成は、法華寺院を管理するための理由が大きいといわれているし、法華は不受不施の問題もあって、徳川時代には法華宗と自称することを許されなくなり、改名を強制されている。そして法華宗分裂以後も、多くの系統に分かれ、現在でも新興宗教の数は法華関係が一番多いのは衆知の通りである。

他方、法華に対する京都における一揆の上でのライバル真宗も、自からが主張した浄土真宗を名のことは徳川幕府からは許されず、本願寺も東西に分割されて、統一を破壊されている。浄土真宗という宗派名は、明治になってから使用されるようになるのである。

このようにして、鎌倉仏教の中でも、「法華にあらずば人にあらず」といって古くから京都で著しく教線を張っ

て教徒を獲得した法華宗と、蓮如以後、全国レベルで農民をとらえた真宗が、京都では、鎮西派などの浄土宗に寺院数の上では一歩先をゆずることとなった。

いずれにせよ、京都では檀家寺院としては、念仏か題目の相違はあるにせよ、口に文句を唱えるいわゆる口称の宗派に属する浄土宗、浄土真宗、日蓮系宗派が多い。これは戦争や一揆や都会での商業などに従事する場合、ある程度、動的なテンポが必要であって、人は念仏や題目を唱えながら、戦争をしたり、一揆をおこしたり、都会生活ができるが、座りながらだけではそれらのことをやりづらい。現代の社会で京都市民がこれらの理由で、各宗派に所属しているのではないが、江戸時代の初期、現在の大半の寺院が建立された頃、ある程度の選択も行なわれて、それぞれの寺院の檀家になった訳であるから、当時は各宗派の所属意識があり、一度成立した集団に特有の集団意識などがある程度今でも働いていると思われる。もちろん、日本人の宗教意識は、たぶんに混合的側面が強くて、同時にいくつかの宗教に属して何とも思わないが、その中でも主たる宗教、準拠宗教があると考えすることはできよう。以上は主として、仏教寺院数を中心として京都の宗教的状况を概観したものであるが、現在では、仏教以外のキリスト教徒、神道系及び仏教系の新興宗教の信者などの増加、都市化に伴なう真宗や曹洞宗地区からの信徒の流入、社会状況の変化による社会意識の多様化などによって、現在の宗派的分布も以前とはずいぶん異なっている。

京都府の明治末期と大正七年の宗教別による人口分類は次の通りであるが、比率そのものは、京都市内も大同小異であろう。これによるとわずか一五年の間にも、少しずつ宗教の多様化のきざしがかがえるが、大勢は、公的な檀家制度がなくなって五〇年前後であるから、なお仏教徒の占める割り合いは実に大きい。ところが昭和四三年の小平修氏の京都市の調査によると、神道五・八%、仏教四七・八、キリスト教五・七、創価学会一二・二、その

表6 宗教別百分比及び実数

	神 道	仏 教	キリスト教	宗教不詳 (無宗教など)	計
明治37年 (1904)	2.8% 7,062人	97.1 370,826	0.4 1,560	0.7 2,492	100 381,940
41年 (1908)	2.1% 9,232人	96.4 425,341	0.6 2,435	0.9 4,256	100 441,264
大正7年 (1918)	2.6% 17,203人	95.4 638,056	0.9 5,748	1.2 7,922	100 668,929

『京都府統計史料集』I, 京都府, 昭和43年。

表7 Q14 あなた個人の宗教はどれですか

項目 地区 性別		仏教	キリス ト教	神道	その他	なし	D・K	計
中 京	男	64 70.3%	2 2.2	3 3.3	0 0.0	22 24.2	0 0.0	91 100.0
	女	111 73.8	3 1.3	3 1.3	1 0.7	31 20.8	1 2.0	150 100.0
右 京	男	91 65.5	3 1.4	2 1.4	0 0.7	43 31.7	0 0.0	139 100.0
	女	81 58.8	4 2.9	4 1.5	0 1.5	48 35.3	0 0.0	137 100.0
計		347 67.2	12 2.3	12 2.3	1 0.2	144 27.9	1 0.2	516 100.0

他一五・一、N・A二一・七(小平修、  
「社会的意識とその変数の構造連関」  
(二)、『座大法学』四卷三号、京都産業  
大学法学会、昭和四十五年、六四頁)  
となり、仏教は創価学会を合わせて六  
割となるが、総じて多様化が進んでき  
ている。今回のわれわれが右京区・中  
京区を調査地として行なった所では上  
のような結果を得ている(Q14は今回  
の調査における質問番号14を示す。な  
お、宗教関係についての質問全項目は  
一八〇―二頁に掲げた)。

これによると、仏教が個人の宗教で  
あると答えたものは、右京区よりも中  
京区の比率が高く、それに反比例して  
個人の宗教なしは中京区よりも右京区  
が多くなっている。古い行政区と新し  
く今も開発されて新しい家の増えてい

表8 信者のパーセンテージ

		第Ⅱ次 (1958)	第Ⅲ次 (1963)	第Ⅳ次 (1968)	〔宗教調査〕 (1968)
信者の合計		35	31	30.3	34
信じている宗教	神道	3	2	2.8	4
	仏教	24	23	23.0	24
	キリスト教	1	1	1.0	1
	新興宗教	2	1	1.0	1
	新宗派不明	5	1	2.5	4
信じていない		65	69	69.7	66
計		100	100	100	100*

\* 764人

『第2 日本人の国民性』統計数理研究所国民性調査委員会, p 45, 至誠堂, 昭和45年。

る行政区の相違であらうか。一九六四年に行なわれた本願寺派布教部による大阪のマンモス団地の調査資料によると、「家の宗教がありますか」という質問に対する解答で、家の宗教なしと答えたのが六一四のうち二〇二、すなわち三二・九%であった(サンプル数は一万)。個人の宗教でなく家の宗教を問うた場合、日本人の宗教観として個人の宗教はもたなくても、家の宗教ならあると答える者の方が多いはずであるから、この三二・九%の数字はわれわれの得た数字よりも大きい意味をもっている。この六一四の実数は、世代としては三〇代、四〇代が多く、学歴も大学、短大(旧高専)出身という生活意識の高いことがその特徴であると紹介されている(鈴木宗憲、『現代宗教論』法律文化社、一九六五年、一二―三頁)。

統計数理研究所の国民調査委員会による宗教心の調査によると(信者のパーセンテージ)、宗教を信じているというものは、第Ⅱ次調査以来三割余りで、あまり変化がない。一九六八年の国民調査とはほぼ同時に行なわれた「宗教調査」でもあまり変らない。日本人のうち「宗教を信じている」というものは約三分の一とみている。宗教心の問い方がわれわれの調査より厳格で



あること、われわれの場合は、調査拒否などの調査不能者に「信じていない者」が含まれているために、このような数字の開きがでたのかもしれない。なおこの国民性調査によると、仏教信者は、全国民の約四分の一に近いものと考えられ、第二位の神道の二―四％を大きく引き離している。キリスト教は一％前後、仏教の内訳は、浄土真宗系が全国民の一割余りをカバーし、日蓮宗系六―七％、真言宗約四％という結果であり、日蓮宗のうち創価学会は全国民の三―四％ぐらいである。調査時の二〇才以上の日本人は六、二〇〇万人であるから、創価学会の信者は約二〇〇万と推定されるが、これは公称の三分の一に満たない。このほか天台宗、禅宗系などの数値ははっきりしない。神道では天理教、金光教、黒住教があげられ、新興宗教ではPL教団、世界救世教が記録されている。キリスト教のカソリックとプロテスタントの優劣はきめられないが、ギリシヤ正教徒はめったにない（統計数理研究所国民性調査委員会、西平重喜、『第2日本人の国民性』至誠堂、昭和四五年、四六頁）。さらに京都市民意識調査研究会の調査（表9）によると、個人の宗教があるかという質問に対して六八％の人がないと答えている。宗派では仏教がもっとも多く一九％あり、他は数％以下づつである。この調査の年令別による宗教の割合によると、六〇才以上では半分近くが仏教を信じ、「宗教なし」は三分の一程度だが、二〇才代では、仏教を信じるものはわずか数％に落ち、「なし」が八割をこえる。既成仏教以外では、創価学会は年令と関係なく、キリスト教信者は二〇才代に多い（京都市民意識研究会、清水、三宅、「京都市における市民意識」（一）、『法学論叢』九一卷三号、京都大学法学部七二頁）。この調査とわれわれの場合を比較すると、調査不能者一、〇〇〇名中三二一名であって、われわれの調査不能者より低く、このことから、調査にもれたより多くの人の動向が調査結果に何らかの影響を与えたであろう。また京都市民意識調査研究会の調査では、「あなたは何か宗教を信じていらっしゃいますか。（信じているものに）どの宗教ですか」という質問形式であるのに対して、われわれの調査では、「あなた個人の宗教はつぎの

表9 年 令 と 宗 教

宗 教	年 令						全サンプル
	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	
仏 教	5	7	10	24	25	48	18.7
創 価 学 会	6		5	4	2	6	4.3
キ リ ス ト 教	4	6	3	2	3	1	2.9
そ の 他 の 宗 教*	4	2	3	2	11	10	5.3
な し	81	85	77	67	58	33	67.6
不 明			2	1	1	2	1.2
計	100	100	100	100	100	100	100.0
N	113	82	173	118	90	103	679

\* 神道、天理教など。『法学論叢』91巻3号，p72，京都大学法学部。

うちどれですか」1、仏教、2、キリスト教、3、神道、4、その他（ ）、5、なし、である。日本人の宗教感覚からいって、宗教は信じるかどうかという問い方が問題であり、信じていなくとも、仏教やキリスト教に入っているかもしれないし、信じていなくても、仏教や神道やいわしのあたまを信心していることだってあり得るから、質問の形式の相違が調査結果に及ぼす影響があったと思われる。さらに重要なことは、京都市民意識研究の背景となっている京都大学と仏教大学という大学の相違が特に宗教についての調査だけに被調査者に微妙な影響を与えたことも考えられる。しかしながら注目しなければならないのは、京都市民意識研究の山川雄巳氏が、別の機会に行なわれた同様の調査（一九六九年実施）によると、大阪市の衛星都市のひとつの吹田市では、市民の四五・一％が「無信仰」であった。若い年令層が断然厚い千里ニュータウン地域の場合にしても「無信仰」は五六・五％であった（一九六六年の千里ニュータウン調査では五四・七％——「千里ニュータウンにおける政治・社会意識の実態」一九六八年、『吹田市における政治・社会意識の実態』一九七一年、ともに関西大学経済・政治研究所刊行）。この結果と山川氏の京都市民調査とを比較して、京都市民は、大阪近郊都

市の市民や、さらに大団地の住民よりも非宗教的であるとし、これは神社・仏閣の観光センター化のしからしむところかもしれないと結論づけている（京都市民意識研究会、山川雄巳、「京都市における市民意識」(三)、『法学論叢』九一卷六号、七四～五頁）。

主要宗派に属する寺院総数六九、四九三ヶ寺の全国レベルでのうちわけは、単立寺院や新興諸宗派、寺院数の少ない奈良仏教系などを除けば、真言・天台宗は二割強、浄土系四割、禅系三割強、日蓮系一割である。このうちで真言・天台系寺院は近畿・中国地方と関東地方に比較的まとまった密度分布があり、浄土系寺院は北海道をはじめ上越・北陸・中部・近畿・紀伊地方にまたがり、中国・九州中央部に高い割合の分布をみせている。禅系寺院は東北・山陰・四国・九州地方の一部に高い分布がみられ、日蓮系寺院は千葉・東京・山梨のいずれも日蓮の足跡と関係の深い地方にまとまった分布をみせている（藤井正雄、『前掲書』評論社、昭和四九年、五九～六四頁）。このように寺院は地域的に比較的まとまりをみせて分布しているが、特に京都市に限定してみると、全国的分布とは全く違つた宗派的割合を示していることは上述したとおりである（表5）。寺院というのは建造物であり、これを簡単に違つた場所へもって行って、建てかえることは困難であるし、遠くはなれた地域への移転は一層困難である。それに反して、人間は、居住地を変えることは比較的可能にできるし、じつさに都市化の進展などによって、農山村地域の人口が減少して、大都市を中心とした地域へ人が集まってきた。この農村から都市への人口移動は、寺院と人口の間の最初のバランスを崩しているから、現況の寺院の分布が、そのまゝ宗派勢力として反映していないということができる。たとえば明治十三年（二八八〇）のわが国の総人口は三、六〇〇万人で、そのうち人口の八五％が農民であつて、完全な農業国であつた。都道府県別人口では第一位が農業県の新潟で二五五万人、第二位東京の九六万人と大きな差がある。現在東京は人口一、〇〇〇万人を超え、一〇倍以上になり、その他の大都市人口も過密になつて

表10 明治・大正期の京都における浄土宗と真宗の人口

	浄土宗	明治37年を100 とした場合	真宗	明治37年を100 とした場合
明治37年(1904)	139,372人	100.0	137,937	100.0
38年(1905)	139,731	100.3	138,547	100.4
39年(1906)	145,501	104.4	141,115	102.3
40年(1907)	149,774	107.5	143,708	104.2
41年(1908)	157,125	112.7	157,253	114.0
42年(1909)	160,317	115.0	160,046	116.0
43年(1910)	146,774	105.3	175,220	127.0
大正2年(1913)	169,118	121.3	202,079	146.5
7年(1918)	245,408	176.1	268,663	194.8

京都府『京都府統計史料集』I, 昭和43年。

いる。地域的には、裏日本の都市の人口が減少し、表日本の大阪より東京までの大平沿岸の都市が増加している。つまり都市人口が減少している地方は農村人口が減少していることはいうまでもなく、わが国の都市への人口集中は、北海道・裏日本・四国・九州などから東海地区への人口移動である。京都の場合には東京、大阪、名古屋ほどの影響をうけてはいないだろうけれども、やはり人口増加都市にちがいはない。そこで農村定着タイプの曹洞宗や、真宗の所属者、信者が京都市内へ流入しているかどうかをみる手掛りとして、現在の主要宗派別の分類を今回の調査によって明らかにしてみる(表11)。

表10は明治、大正期、京都における浄土宗と真宗の人口比較である。これによると明治四二年頃までは、浄土宗、真宗の人口がほぼ同じ位であり、増加率も類似しているが、大正七年には、真宗が少し多くなっている。しかしこの一五年間でみる限りでは両者が抜きつ抜かれたのシーソー・ゲームを展開している。この時期の両者の増加率は、当時の京都市の人口の自然増加率をしのぐものであるだけに、かなりの部分が他府県からの人口流入と考えられる。

表11 Q14-SQ<sub>1</sub> どの宗派に属しますか

地区	性別	項目															DK	計
		天台宗	真言宗	曹洞宗	臨済宗	浄土宗	西山系 浄土宗	浄土 真宗	日蓮宗	その他 の仏教	天理教	大本教	その他 の神道	カソリ ック	プロテ スタント	その他 のキリス ト教		
中 京	男	3 4.3%	4 5.8	0 0.0	3 4.3	19 27.5	0 0.0	20 29.0	9 14.5	1 1.4	0 0.0	1 1.4	2 2.9	0 0.0	2 2.9	0 0.0	5 7.2	69 100.0
	女	0 0.0	7 6.1	3 1.8	4 5.3	33 27.2	2 1.8	41 36.8	11 8.8	1 0.9	0 0.0	0 0.0	2 1.8	0 0.0	3 2.6	0 0.0	9 7.9	116 100.0
右 京	男	2 2.1	4 5.6	3 3.1	3 3.1	30 31.3	0 0.0	19 19.8	5 5.2	4 5.6	2 2.1	0 0.0	0 0.0	2 2.1	1 1.0	0 0.0	21 21.9	96 100.0
	女	2 2.2	7 7.9	5 5.6	0 0.0	23 25.8	2 2.2	23 25.8	7 7.9	0 0.0	3 3.4	0 0.0	1 1.1	2 2.2	2 2.2	0 0.0	12 13.5	89 100.0
計		7 1.4	22 5.9	11 3.0	10 2.7	105 28.4	4 1.1	103 27.8	32 8.6	6 1.6	5 1.4	1 0.3	5 1.4	4 1.1	8 2.2	0 0.0	47 12.7	370 100.0

今回の調査に於ける宗派別実数と百分比は表11の通りである。これは個人の宗教を仏教と答えたもの三四七人に、その宗派を質問して得た回答の分類である。

依然として、鎌倉仏教系の口称三派（浄土宗、浄土真宗、日蓮宗）に属するものが多く、とりわけ浄土宗と浄土真宗ではほぼ同数の数字がでているが、南区、下京区などが調査の対象とされていればもう少し異なる結果がでたかもしれない。江戸期に於いても信者の員数が多かったと思われるこれらの三派がなお現在でもビッグ・スリーを占めているのは、興味ある事柄の一つである。寺院数の比率から推量するとかつては浄土宗の所属者が他をかなり圧倒していたのに、現在では浄土宗と真宗が同列になっている。これは京都への人口の流入先が、福井、石川、富山、滋賀などのもともと真宗の強い土地であること、また京都の近隣府県からの流入も多いことから生じている。京都の近郊県は、真宗も多いが、浄土宗も多いために、宗派所属が現在でもこのようになっているのであろう。つまり、近くの府県からは真宗と浄土宗が流入し、北陸などからは真宗が流入してきたのである。この表で西山系浄土宗が少ないのは、この所属者の中で浄土宗に記入したものもあるからだと思われる。事実、江戸期には、一般の人々が鎮西派浄土宗も西山派浄土宗と同じように考え、明確な区別を設けない時期があったといわれているので、現在でもその伝統が残っているのかもしれない。

鎌倉系の宗派所属者について、真言宗の信者が多いのは、寺院の宗派別比率に於ける順位と合致している。曹洞宗の寺院数は、前述したように、主要宗派では一番少なく、当然鎌倉系仏教宗派の中で最低であるが、京都市内で少なくとも、京都市周辺に位置するものがあつたため、明治以後、周辺部を編入して市内部が拡大されたため、寺院数が若干増加し、加えて市内への流入人口によって、天台、臨済とはば同じ員数を数えることができる。香里団地の調査(表12)では、サンプル実数六一四のうち、真宗八七、浄土宗三九、禅宗三一、日蓮宗三一、真言宗三八などで、

表12 家の宗教がありますか

項目	真宗	浄土宗	禅宗	日蓮宗	真言宗	仏教 その他の	宗派不詳 (仏教)	キリスト	神道	なし	D・K	新興宗教	計
実数	87	39	31	32	38	21	74	14	8	202	62	6	614
%	14.2	6.4	5.0	5.2	6.2	3.4	12.0	2.3	1.3	32.9	10.1	1.0	100.0

真宗以外はそれぞれよく似た実数を示しているが、宗派間のバランスは京都市内の場合とかなり異っている（鈴木宗憲『前掲書』一一九六五年、法律文化社、二三頁）し、全国の寺院分布と比較しても異っている。真宗が多いのは当然としても、禅宗の数字はかなりの部分は曹洞宗が占めているだろうし、真言宗が日蓮宗より多いことは、京都市とはちがった特徴を示している。真言系の寺院分布は近畿南部、中国地方、四国地方にその密度が高いところから、それらの影響を受けているのかもしれない。

信念にせよ所属にせよ、何らかの形式で特定の宗派と個人が結びついているもののパーセンテージを上で紹介したが、それでは自分のかかわっている宗派とそうではない他の宗派との間に相違するところを見出しているかどうかを調査した。すなわち、「自分の宗派と他の宗派とに違いを感じるか」という質問に対する回答をみると、違いを感じないものが五〇%と全体のちょうど半数を占めている。日本人の宗教観念はキリスト教徒の多い国々の人々と異なって、日本では、玄関には魔除けの神札、広間には神棚、座敷には仏壇、仏壇の内部には、本尊の他に先祖の位牌、善光寺、高野山のお札（ふだ）、はては自家用車には各地の神社、仏閣のだしたお守りのワッペンがはりつけてあるというシンクレティズムの現象を呈している。すなわち日本人の宗教意識は性質も、発生も異なる種々の宗教や信条が習合したり、また発展段階の異なる宗教・信条が、個人の意識のなかで地層のように重なり、積み上がって雑居している信仰構造である。違いを感じて少しでも自己の宗派に特定の感

表13 Q14-SQ<sub>2</sub> (1~3に対して) 自分の宗派と他の宗派とに違いを感じるか

項目		違いを感じる	違いを感じない	わからない	DK	計
地区	性別					
中京	男	20 29.0%	29 42.0	15 21.7	5 7.2	69 100.0
	女	34 30.7	50 43.0	26 26.3	6 5.2	116 100.0
右京	男	31 27.2	29 32.0	27 25.2	9 15.5	96 100.0
	女	18 20.9	45 50.0	23 27.9	3 1.2	89 100.0
計		103 27.8	153 41.4	91 24.6	23 6.2	370 100.0

覚をもっているものは全体の三割弱であって現代日本人の宗教意識には、雑居的信仰構造を否定するわけにはいかないように思われる。

次にこれが宗派別ではどのようにあらわれてくるか、すなわち宗派別とのクロスを行なった。他宗派との違いを感じる割合の高いのは曹洞宗であるが、実数が少なくて他と比較しにくいところがある。京都や東京などの都市に大本山が少なく、都会離れた宗教的特徴が作用しているのだろうか。現在わが国に存続している教団は、江戸時代に幕藩体制に宗派として制度化され、少しでも幕府にとって都合の悪い方に逸脱したものは、思想的には残存しても、教団として活動を続けることは不可能であった。京都市内で、浄土宗、真宗、と並んで主流的位置を占める日蓮宗の場合、創始者日蓮は、ただ一仏、すなわち法華経の仏陀のみを崇拜せよと教えた。法華経以外の仏陀をあがめることは、効果がなければかりでなく、真の仏陀に対して邪悪かつ不忠である。彼はこの観点から、他のすべての宗派を打破せよと主張した。彼の教えは、第一に論理的であって、しかも、仏陀をあがめる正しい手段として儀礼を行なうことや、神秘的な冥想にふけることなどは強調しなかった。むしろ彼は、信心は仏陀におくべく、他のすべての経にすぐれて神聖であり、ある意味では仏陀そのものと一つのものである



表14 Q14-SQ<sub>2</sub> 自分の宗派と他の宗派とに違いを感じるか

(中京+右京)

京都市民の宗派意識

項目 宗派	感 じ る	感 じ ない	わ か ら ない	DK	計
天台宗	2	3	2	0	7
真言宗	6	12	4	0	22
曹洞宗	5 45.5%	4 36.4	2 18.2	0	11
臨済宗	1	7	2	0	10
浄土宗	28 26.7	39 37.1	33 31.4	5 4.8	105 100.0%
西山系	0	3	1	0	4
浄土真宗	25 24.3	51 49.5	26 25.2	1 0.9	103 100.0
日蓮宗	13 40.6	13 40.6	5 15.6	1 3.1	32 100.0
その他の仏教	4	1	0	1	6
天理教	0	2	1	2	5
大本教	0	1	0	0	1
その他の神道	0	1	1	3	5
カソリック	2	2	0	0	4
プロテスタント	3	2	2	1	8
その他のキリスト教	0	0	0	0	0
DK	14 29.8	12 25.5	12 25.5	9 19.1	47
計	103 100.0	153 100.0	91 100.0	23 100.0	370 100.0

る法華経を讀える簡単な語句(題目)のくり返しによって、その意義は示されるべきであると教えた。創始者の教えが全く完全に何人にも伝わるということはまず不可能ではあるが、この日蓮のもつ考え方が、具体的な宗団運営に於いていろいろな形で浮びあがってくるものである。例えば、家康は説法を強調した日蓮宗不受不施派をていついて弾圧し、法華宗は力を弱められた。世の人は法華の宗徒の特性を「法華かたぼけ」と表現したが、この宗派の人びとの *rigorism* を指すものであろう。表14によると現在の日蓮宗でさえ、真宗、浄土宗に比べて宗派のちがいを感ずるものの割合がいくらか高い。日蓮系には他の宗派もかなり存在す

表15 Q15 (Q14で1と答えた人に) 彼岸に寺まわりをしますか

地区	項目	春秋とも にする	春か秋か にする	全くしない	DK	計
	性別					
中 京	男	33 51.6	10 15.6	20 31.3	1 1.6	64 100.0
	女	66 61.8	17 14.6	26 23.6	2 1.8	111 100.0
右 京	男	40 41.8	15 17.6	32 35.2	4 6.6	91 100.0
	女	33 40.7	20 24.7	22 27.2	6 7.4	81 100.0
計		172 49.6	62 17.9	100 28.8	13 3.7	347 100.0

るが、その中にはもっと高い数字を示すものもあるう。

### 三

#### a 行政区別からみた仏教行事

##### 春秋の彼岸法要の寺院への参詣 (表15)

中京区と右京区とを比較すると春秋ともにするものが、男女とも中京区の比率が高い。春か秋かにする、を含めても中京区の方が高い。それだけ、全くしないは、各々の男子、女子において中京区よりも右京区が若干高い比率である。これは、京都市では中心に位置して、古くからある区で50才以上の者が多い小学区と、右京区でも比較的新しく開けた周辺にある桂学区との相違から生じた結果であろう。

##### 家の墓はどこにあるか (表16)

中京区と右京区を比較すると、両区男女とも京都市又はその近郊にあるが、それぞれ半数を越しているが、中京区が男女共に右京をその比率で上まわっている。ところが郷里及び両方にある共に右京区の比率が高く、特に右京区の女子は郷里にあるが二九・四％であるのに対して中京区の女子はわずか〇・七％である。つまり墓は、両区とも京都市またはその近郊にある人が多いが、右京区は中京区ほどではない。しかしその反対に、郷里及び両方にある人が中京区より右京区で多く、

表16 Q16 家のお墓はどこにありますか

地区	項目 性別	京都市 又はそ の近郊	郷里	両方 にある	その他	なし	DK	計
中 京	男	66 72.5	20 22.0	2 2.2	1 1.1	2 2.2		91 100.0
	女	110 73.8	1 0.7	1 0.7	1 0.7	5 3.4	NA 31 20.8	149 100.0
右 京	男	77 55.4	39 28.1	6 4.3	2 1.4	14 10.1	1 7.2	139 100.0
	女	87 64.0	40 29.4	3 2.2	0 0	5 3.7	1 0.7	136 100.0
計		340 66.0	100 19.4	12 2.3	4 0.8	26 5.0	33 6.4	515 100.0

表17 SQ 盆の季節に墓参りをしますが、どの程度お参りをしますか

地区	項目 性別	毎年する	時々する	ほとんど しない	全くしな い	DK	計
中 京	男	56 61.5	19 20.9	11 12.1	5 5.5		91 100.0
	女	120 80.5	16 10.7	6 4.0	7 4.7		149 100.0
右 京	男	55 39.6	45 32.4	13 9.4	11 7.9		124 100.0
	女	86 63.2	25 18.4	14 10.3	9 6.6	2 1.5	136 100.0
計		317 63.4	105 21.0	44 8.8	32 6.4	2 0.4	500 100.0

中京区に住む女性のほとんどが京都市かまたはその近くにある。つまり中京区の女子は京都市近郊から嫁いできたか、ここで生まれた娘さんが多いのだろう。全体的には、右京区の方が地方からやってきた女子が少し多いといえる。(表29)

### 盆の季節に墓参りを しますが、どの程度 お参りするか(表17)

毎年するは、右京区の男子を除いて六〇%を超えているが、女子は職業をもっていない場合が多いとか、男子より長命であるという理由もあるのか、あるいは男子は無信仰なのか女子が

表18 Q17 家に仏壇がありますか

地区	項目	あ	る	な	い	DK	計
	性別						
中 京	男	73 82.2	17 18.7	1 1.1	91 100.0		
	女	117 78.5	32 24.2		149 100.0		
右 京	男	77 55.4	62 44.6		139 100.0		
	女	84 61.8	52 38.2		136 100.0		
計		351 68.2	163 31.7	1 0.2	515 100.0		

よく墓まいりをするものが分る。特に中京区の女性は一番よく墓まいりをする。時々すると毎年するとを合わせても、その傾向は変わらないう。いずれにせよ、墓まいりを全くしない人はひじょうに少なく、京都市とがその近くや、郷里の墓へ、毎年墓まいりをする人が多く、毎年する人は両区とも女子が男子よりも多く、毎年する人にくらべると何年間かごとにする人は、両区とも男子が少し多くなる。

#### 家に仏壇があるか(表18)

中京区、右京区ともかなりの人の家に仏壇があるが、古い行政区である中京区は右京区より「ある」割合が高い。当然「ない」家は右京区に多くなる。中京区では女子より男子が、右京区では男子より女子で「ある」割合が若干高いことを示しているが、このクロスからだけではくわしいことは判定できない。

#### 盆に仏壇をあげ、先祖の霊を招くか(表19)

家に仏壇のあるところでは、たいていの人が毎年家で盆行事を行なっている。若干ではあるが中京区のほうが右京区よりも、毎年するという回答の比率が高い。やはり古い家が多く、中京区全体も古くからの町だということと関連があるようだ。またこの家の中の盆の行事は、すくなくとも家に仏壇のあるすべての人に知られているといつて

表19 Q17-SQ<sub>1</sub> (あると答えた人に) 盆に仏壇をあげ、先祖の霊をまつりますか

項目		毎年する	時々する	ほとんど しない	全くし ない	わから ない	計
地区	性別						
中 京	男	65 89.0	5 6.9	0 0	3 4.1	0 0	73 100.0
	女	109 93.2	2 1.7	3 2.6	3 2.6	0 0	117 100.0
右 京	男	64 83.1	7 9.1	4 5.2	1 1.3	1 1.3	77 100.0
	女	64 76.2	14 16.7	0 0	6 7.1	0 0	84 100.0
計		302 86.0	28 8.0	7 2.0	13 3.7	1 0.3	351 100.0

表20 Q17-SQ<sub>2</sub> “お精霊（ショライ）迎え”をされますか

項目		(1)	(2)					
地区	性別	毎年する	時々する	ほとんど しない	全くし ない	わから ない	DK	計
中 京	男	36 39.6	1 1.1	9 9.9	32 35.2	3 3.3	10 11.0	91 100.0
	女	61 40.9	2 1.3	14 9.4	53 35.6	1 0.7	18 12.1	149 100.0
右 京	男	30 21.6	6 4.3	8 5.8	43 30.9	11 7.9	5 3.6	103 100.0
	女	42 30.9	7 5.1	11 8.1	56 41.2	10 7.4	10 7.4	136 100.0
計		169 35.3	16 3.3	42 8.8	184 38.4	25 5.2	43 9.0	479 100.0

よい。

お精霊（ショライ）迎  
えをされますか（表20）

「京都の中京の人々は、毎年盂蘭盆になると四条の橋をわたり大和大路を南に折れて、さらに東へゆるやかな松原坂を上って六道まいるをする。市電を“清水道”で下り、坂を西へ下ってもすぐだが、精霊の迎え鐘をたよりに松原坂をゆっくり上って行く方がたのしい。坂の北側に古びた赤門のみえるのが、六道さんの名で親しまれた珍皇寺である。本堂の前を六堂の辻といい、冥途の通い路と考えたのだ

表21 Q17-SQ<sub>3</sub> (上で、(1)、(2)と答えた人に対し) どこに行きますか

地区	項目		東山の 珍皇寺	六波羅 密寺	千本堂 釈迦堂	妙心寺	その他 (寺院名)	DK	計
	性別								
中 京	男		5 5.5	11 12.1	0 0	1 1.1	19 20.9	1 2.7	37 100.0
	女		10 15.9	18 28.6	1 1.6	1 1.6	22 34.9		52 100.0
右 京	男		3 4.7	4 6.3	3 4.7	7 10.9	16 25.0	3 8.3	36 100.0
	女		1 2.0	12 24.5	1 2.0	3 6.1	17 34.7		34 100.0
計			19 11.9	45 28.3	5 3.1	12 7.5	74 46.5	4 2.5	159 100.0

が、親しい人々を鳥辺野の煙とした京都の人々にとっては、年に一度の六道まいりで精霊をむかえることを、千年このかた伝えつづけているのである(林屋辰三郎、『前掲書』岩波書店、一九六二年、一一一―六頁)、といわれるこの六道界わいは、京都の人々から孟蘭盆以外はまったく忘れられている。お盆になると突如として人が集まってくる。こうした古い盆行事が、現在どの程度行なわれているかを問題にするために上記のような質問を行なった。これによると、全体の三割以上のものが、精霊迎えを行なっており、時々するを含めると四割近くのもがこの夏の行事を現在もつづけている。中京区と右京区を比較すると、やはり中京区のほうが右京区よりもパーセンテージが高いが、もともとは中京を中心とした民衆行事であったものがかかなり全市的にひろがりをもっているといえよう。

(上で、二と答えた人に対し) どこに行きますか (表21)

人々はこの六道まいりとして珍皇寺とか六波羅密寺などの至近の距離にある寺で、ある一つの地域へでかけて、精霊を迎えるとともに、極楽へのねがいをこめたのである。現在それがどのようになっているかをみたのが上の調査結果である。近年においては、年末年始の行事をどこの神社仏閣でも行なうように、この精霊迎えの人々を歓迎する

寺院が多く、特に有名な寺院がこれを行なうようになってきている。したがって地域的な拡散もある程度みられるようであるが、調査の結果をみると中京区では精霊迎えを行なう人は今でもなお六波羅地区に集中している割合が高いといわなければならない。六道まいりに関するかぎり、中京区の人々は千年前の伝統を今も維持しているといふことができる。現在ではこの盆の季節に開かれる陶器まつりには外国人も多くみられて国際色が豊かであるが、その中心には中京区やその近辺の住民が集まり、もう十日ほどでやってくる五山の送り火に思いをはせるのである。

### **b 宗派別からみた仏教行事（浄土宗、浄土真宗、日蓮宗を中心に）**

墓や仏壇のもつ機能とは何かをここで論ずるのではないが、かつて人間の死体処理用にあつた墓は現在では土葬よりも火葬に置きかえられてきてからは、かなり概念的な靈魂との関係で生きている人間とを結びつけている。しかし、故人の遺骨を墓の下に埋めるということがらは、死者の肉体を通して生存者との関係が維持されるという意味を残しているように思われる。他方仏壇になるとこれはもっと概念化された靈魂との交流の場を用意しているように思われる。したがって、ウメバカ、マイリバカ、仏壇という三つの系譜への発展は、具体的な死者から観念的な故人への畏敬が表現され、現在では、墓で故人そのものが意識され、仏壇では故人の靈魂が強調されているのではないだろうか。

今度の調査で墓や仏壇のもつ意味や役割についての質問はしなかったが、宗派の所属を表わしたものの九割近くが、毎年あるいは、数年に一度は盆の墓まいりをしている。正月の年始とともに盆の魂の祭は、古来から年中行事の二大中心であり、先祖の靈魂がこの日わが家を訪れるという意味では仏教の中心的儀礼である。わが家の墓まいりと六道まいりとをすませて、帰る道すがら仏壇に供える供物を買いととのえるのが盆の季節の京都の町のしきたりであった。したがって中京区と右京区とを較べると旧い家の多い中京区の住民の方が盆に毎年墓まいりをする割

家のお墓はどこにありますか

Q16 あなたのお家のお墓はどこにありますか

京				市 内						
その他	なし	DK	計	市内 と 近郊	郷里	両方	その他	なし	DK	計
			4	5	1			1		7
1			11	12	8		2			22
			8	7	4					11
			3	8	2					10
	1		52	88 (84.6)	11 (10.6)	1		4		104 (100.0)
	1		2	1				1		2
1	1		42	67 (65.0)	30 (29.1)	1	2	2	1	103 (100.0)
	1		13	24 (72.7)	7 (21.2)	1		1		33 (100.0)
			4	4	1	1				6
	1		5	3	1			1		5
				1						1
			1	1	4					5
	1		3	1		1		1		3
	1		3	7				1		8
	2		33	23	17	3		2	1	46
2 (1.1)	9 (4.9)		184 (100%)	252 (68.9)	86 (23.5)	8 (2.2)	4 (1.1)	14 (3.8)	2 (0.5)	366 (100%)



表 22

	Q16 あなたの家の墓はどこにありますか							Q16 あなたの家の墓はどこにありますか		
	京							右		
	市内 と 近郊	郷里	両方	その他	なし	DK	計	市内 と 近郊	郷里	両方
天台宗	2				1		3	3	1	
真言宗	5	5		1			11	7	3	
曹洞宗	3						3	4	4	
臨済宗	6	1					7	2	1	
浄土宗	44	5			3		52	44	6	1
西山系 浄土宗								1		
浄土真宗	43	15		1	1	1	61	24	15	1
日蓮宗	16	4					20	8	3	1
その他の 仏教	1		1				2	3	1	
天理教								3	1	
大本教	1						1			
その他の 神道	1	3					4		1	
カソリック								1		1
プロテ スタント	5						5	2		
その他の キリスト 教										
DK	6	5	1			1	13	17	12	2
計	133 (73.1)	38 (20.9)	2 (1.1)	2 (1.1)	5 (2.7)	2 (1.1)	182 (100%)	119 (64.7)	48 (26.1)	6 (3.3)

墓参りをしますか			Q16sq お盆に墓参りをしますか					
京			市 内 (中京・右京)					
全 く し な い	DK	計	毎年	時々	ほとん どしな い	全 く し な い	DK	計
		4	5		2			7
1		11	12	8	1	1		22
		8	8	2	1			11
		3	6	4				10
		52	82 (78.8)	15 (14.4)	5	2		104
		2	2					2
3		42	75 (72.8)	17 (16.5)	4	6	1	103
2		13	23 (69.7)	5 (15.2)	1	4		33
1	1	4	1	2	1	1	1	6
		5	2	3				5
		1	1					1
1		1	3	1		1		5
1		3	1	1		1		3
		3	7	1				8
2	1	33	31	8	2	4	1	46
11 (6.0)	2 (1.1)	184 (100.0)	259 (70.8)	67 (18.3)	17 (4.6)	20 (5.5)	3 (0.8)	366 (100.0)

表 23

	Q16sq お盆に墓参りをしますか						Q16sq お盆に		
	中 京						右		
	毎年	時々	ほとんど しない	全く しない	DK	計	毎年	時々	ほとんど しない
天台宗	1		2			3	4		
真言宗	5	6				11	7	2	1
曹洞宗	3					3	5	2	1
臨済宗	5	2				7	1	2	
浄土宗	44	5	1	2		52	38	10	4
西山系 浄土宗							2		
浄土真宗	50	5	2	3	1	61	25	12	2
日蓮宗	16	2		2		20	7	3	1
その他の 仏教	1	1				2		1	1
天理教							2	3	
大本教	1					1			
その他の 神道	3	1				4			
カソリック							1	1	
プロテ スタント	4	1				5	3		
その他の キリスト 教									
DK	9		2	2		13	22	8	
計	142 (78.0)	23 (12.6)	7 (3.8)	9 (6.7)	1 (0.5)	182 (100.0)	117 (63.5)	44 (23.9)	10 (5.4)

仏壇の行事は  
(仏壇ありと答えたものに)

Q17sq1 お盆に仏壇の行事は  
(仏壇ありと答えたものに)

京				市 内 (中京・右京)						
全 し な い	く わ か ら な い	DK	計	毎 年	時 々	ほと ん ど し な い	全 し な い	く わ か ら な い	DK	計
			3	4						4
			6	11	2					13
			6	7	1					8
			3	8			1			9
			32 (100.0)	72 (94.7)	4					76 (100.0)
			2	2						2
2			30 (100.0)	70 (86.4)	2	3	6			81 (100.0)
1			13 (100.0)	28 (87.5)	2	1	1			32 (100.0)
			3	3	1					4
			3	3						3
				1						1
				1						1
			1			1				1
			1	3						3
1		2	21	27		2	1		2	32
4 (3.2)		2 (1.6)	124 (100%)	240 (88.9)	12 (4.4)	7 (2.6)	9 (3.3)		2 (0.7)	270 (100%)

表 24

京都市民の宗派意識

	Q17sq1 お盆に仏壇の行事は (仏壇ありと答えたものに)							Q17sq1 お盆に		
	中 京							右		
	毎年	時々	ほとん どしな い	全 しな い	く わ か ら な い	DK	計	毎年	時々	ほとん どしな い
天台宗	1						1	3		
真言宗	6	1					7	5	1	
曹洞宗	2						2	5	1	
臨済宗	5			1			6	3		
浄土宗	43 (97.7)	1					44 (100.0)	29 (90.6)	3	
西山系 浄土宗								2		
浄土真宗	45 (88.2)	1	1	4			51 (100.0)	25 (83.3)	1	2
日蓮宗	19 (100.0)						19 (100.0)	9	2	1
その他の 仏教	1						1	2	1	
天理教								3		
大本教							1			
その他の 神道	1									
カソリック	1						1			
プロテス タント										1
その他の キリスト 教	2						2	1		
DK	9		2				11	18		
計	135 (92.5)	3 (2.1)	3 (2.1)	5 (3.4)			146 (100%)	105 (84.7)	9 (7.3)	4 (3.2)

壇にお精霊迎えをしますか				Q17sq <sub>2</sub> 家の仏壇にお精霊迎えをしますか						
京				市 内（中京・右京）						
全 し ない	く わ から ない	DK	計	(1) 毎年	(2) 時々	ほと ん ど し な い	全 し ない	く わ から ない	DK	計
		1	4	4		1			2	7
3	1	2	11	7		2	8	2	3	22
4			7	4		1	4			9
			3	4	2	2	1	1		10
17	3	4	52	54	5	9	25	3	8	104
			2	1		1				2
21	2		42	24	5	10	54	2	8	103
6			13	19	1	3	10			33
3	1		4			1	4	1		6
3	2		5				3	2		5
				1						1
1			1				4		1	5
2	1		3				2	1		3
			1	3			1		2	6
11	3		33	18	2	4	19	3		46
71 (39.2)	13 (7.2)	7 (3.9)	181 (100%)	139 (38.4)	15 (4.1)	34 (9.4)	135 (37.3)	15 (4.1)	24 (6.6)	362 (100%)

表 25

	Q17sq2 家の仏壇にお精霊迎えをしますか							Q17sq2 家の仏		
	中 京							右		
	(1) 毎年	(2) 時々	ほとん どしな い	全 しな い	く わ か ら な い	DK	計	(1) 毎年	(2) 時々	ほとん どしな い
天台宗	1		1			1	3	3		
真言宗	4			5	1	1	11	3		2
曹洞宗	2						2	2		1
臨済宗	3	1	1	1	1		7	1	1	1
浄土宗	32	2	6	8		4	52	22	3	3
西山系 浄土宗								1		1
浄土真宗	11	2	7	33		8	61	13	3	3
日蓮宗	13		3	4			20	6	1	
その他の 仏教			1	1			2			
天理教										
大本教	1						1			
その他の 神道				3		1	4			
カソリッ ク										
プロテス タント	2			1		2	5	1		
その他の キリスト 教										
DK	5			8			13	13	2	4
計	74 (40.9)	5 (2.8)	19 (10.5)	64 (35.4)	2 (1.1)	17 (9.4)	181 (100%)	65 (35.9)	8 (4.4)	15 (8.3)

の回答者に(どこへ行きますか)					Q17sq3 上の(1), (2)の回答者に(どこへ行きますか)							
京					市 内 (中京・右京)							
妙心寺	その他	わなから	D K	計	東珍山寺	六波羅寺	千釈迦堂	妙心寺	その他	わなから	D K	計
2	1			3	1			2	1			4
	1			3	3	2		2				7
1	1			2		1		1	2			4
	1		1	2	1	1			3		1	6
1	9	1	1	25	6 (42.4)	19	1	1	25	3	2	59 (100.0)
	1			1					1			1
1	6	3	1	16	2 (37.9)	9		1	10	4	3	29 (100.0)
1	2	4		7	1 (10.0)	1		1	9	8		20 (100.0)
									1			1
	1			1					1			13
2	5	2	2	15	1	5	2	2	6	2	2	20
8 (11.0)	28 (38.4)	10 (13.7)	5 (6.8)	73 (100%)	15 (10.0)	38 (25.3)	3 (2.0)	10 (6.7)	59 (39.3)	17 (11.3)	8 (5.3)	150 (100%)



表 26

京都市民の宗派意識

	Q17sq <sub>3</sub> 上の(1), (2)の回答者に(どこへ行きますか)								Q17sq <sub>3</sub> 上の(1), (2)		
	中 京								右		
	東珍 皇山寺	六密 波羅寺	千釈 迦本堂	妙心 寺	その他	わな ない から	D K	計	東珍 皇山寺	六密 波羅寺	千釈 迦本堂
天 台 宗	1							1			
真 言 宗	1	2			1			4	2		
曹 洞 宗		1			1			2			
臨 済 宗	1	1			2			4			
浄 土 宗	4	11			16	2	1	34	2	8	1
西 山 系 浄 土 宗											
浄土真宗	1	5			4	1	2	13	1	4	
日 蓮 宗	1	1			7	4		13			
大 本 教					1			1			
プロテス タント								2			
D K	1	3			1			5		2	2
計	10 (13.0)	24 (31.2)			33 (42.9)	7 (9.1)	3 (3.9)	77 (100%)	5 (6.8)	14 (19.2)	3 (6.8)

表27 仏壇のあるかないか(宗派別)

	あ る	な し	D.K	計
天 台 宗	5	2	0	7
真 言 宗	13	9	0	22
曹 洞 宗	8	3	0	11
臨 濟 宗	9	1	0	10
浄 土 宗	78	27	0	105
西山系浄土宗	4	0	0	4
浄 土 真 宗	81	22	0	103
日 蓮 宗	31	1	0	32
その他の仏教	5	1	0	6
天 理 教	3	2	0	5
大 本 教	1	0	0	1
その他の神道	1	4	0	5
カソリック	1	3	0	4
プロテスタント	3	5	0	8
その他のキリスト教	0	0	0	0
D.K	34	13	0	47
計	277	93	0	370

合が高い。宗派別にみた場合(表23)、(毎年する)のパーセンテージは浄土宗が高くて、浄土真宗、日蓮宗の順になっているが、大きな有意差はないようだ。このデータだけからは宗派によって盆行事に熱心なのかそうでないのかは分からない。多分、墓のある場所(表22)が、浄土宗では八四・六%が市内またはその近くにあるのに、それが真宗六五・〇、日蓮宗七二・七であることと関係しているであろう。

家に仏壇がある場合盆に祭壇をしつらえて招魂の行事を行なう割合はすこぶる高い(表24)。中京区全体でみると、九二・五%が毎年行なっている。宗派別によると、市内全体の、高い方から浄土宗、日蓮宗、真宗の順である(表24)。仏壇については、墓のようにそれが遠いか近いかは関係がないから、この行事にいだく関心の度合が作用している。ここでいっている孟蘭盆の行事の仕方は京都洛内のもので、京都でも府

下はこれと異なり、他府県ではそれぞれの地方で千差万別である。さらに宗派の教義上の理念も微妙に影響しているかもしれない。

このところをもう少し深く追求する意味で、特定地区などへの精霊迎えの程度を問うてみた(表25)。それをどの程度するかの問いに、毎年及び数年に一度はすると答えたものは浄土宗が五割少し、日蓮宗は六割少しであるのに真宗は三割を割っている。さらに限定して、六波羅地区への集中度を質問してみた(表26)。これによると、毎年あるいは何年かに一度精霊迎えをするものの中で、浄土宗のものが四二・四%、真宗が三七・九%、日蓮宗はごくわずかの数字しかでてこない。六波羅密寺が真言宗であるためかこの宗派は実数で日蓮宗を上まわっている。この行事だけについていえば、浄土宗と真宗の間に大きな数字の違いがみられる。しかも中京区と右京区の両方において同じ傾向がみられるから、ここでは地域差は考慮にいれる必要はなく、宗派的特徴を示しているといえよう。もともと真宗は、民間行事に対しては非妥協的な態度をとってきたから、この精霊迎への数字も、いわゆる「門徒もの知らず」的側面を表わしているかもしれない。したがって、この数字を逆に読みとって、もともとそうした行事に無縁であった真宗も一般化を進めて、他の宗派との境界線をなくしてきたともいえよう。

彼岸についての質問に対する回答(表28)を、宗派別について考察してみると、やはり、上で述べたことと、同様の傾向を示しており、彼岸会の寺院への参詣を三派で比較すると春秋ともにするものの割合は日蓮宗、浄土宗、真宗という順位で、真宗以外は仏教系合計の比率を上回っている。春秋と両方ともを合計すると、真宗、日蓮宗は仏教諸宗派の比率を下回るが、浄土宗はそれを上回っている。

いずれにせよ、京都の仏教行事、とくに、盂蘭盆行事と彼岸会についていえることは、行政区別では中京区の住民の参加率が若干高いこと、宗派別についていえば、彼岸会を除いて、浄土宗の関係者の参加率が高いということ

表28 彼岸の寺まいり(宗派別)

( ) 内は%

	春秋共	春か秋	全くしない	DK	計
天台宗	4	1	2	0	7
真言宗	8	4	10	0	22
曹洞宗	4	4	3	0	11
臨済宗	7	3	0	0	10
浄土宗	59(56)	20(19)	24(23)	2	105(100)
西山系浄土宗	3	0	1	0	4
浄土真宗	47(46)	21(20)	34(33)	1	103(100)
日蓮宗	20(63)	1(3)	9(28)	2	32(100)
その他の仏教	2	0	2	2	6
天理教	1	1	1	2	5
大本教	0	0	0	1	1
その他の神道	0	0	0	5	5
カソリック	1	0	0	3	4
プロテスタント	1	0	0	7	8
その他の キリスト教	0	0	0	0	0
DK	18	8	15	6	47
計	175	63	101	31	370
仏教系合計	154(51.3)	54(18.0)	119(39.6)	7(2.3)	300(100.0)

表29 町内での定住時期

地区	項目 性別	昭和45年 10月以降	昭和40年 1月～ 45年9月	昭和35年 ～39年	昭和34年 以前	出産時 から	DK	計
中京	男	8 8.8	7 7.7	3 3.3	29 31.9	39 42.9	5 5.5	91 100.0
	女	16 10.7	18 12.1	14 9.4	63 42.3	34 22.8	4 2.7	149 100.0
右京	男	32 23.0	34 24.5	23 16.6	23 16.6	19 13.8	8 5.8	139 100.0
	女	39 28.7	40 29.4	15 11.0	21 15.4	9 6.6	12 8.0	136 100.0

が いえる。男子と女子で区別するといずれの場合も女子が男子よりもよく参加している。また中京区の住民は京都の仏教の伝統的行事を比較的よく守っており、その中心的な役割を果している。そしてこの伝統遵守は浄土宗の所属者と若干相關する部分がある。

今回の調査における宗教関係の質問は次の通りである。

#### 項 目

Q 14、あなた個人の宗教はつぎのうちどれですか。

- 1、仏教 2、キリスト教 3、神道 4、その他（ ） 5、なし

S Q 1（1～3に答えた人に対し……カードを見せながら）

では、このカードにかいてあるどの宗派に属しますか

S Q 2（1～3、と答えた人に対し）自分の属する宗派と、他の宗派との間に何かちがいを感じますか。

- 1、ちがいを感 2、ちがいを感 3、わからない

Q 15、（仏教を信ずる人……Q 14で1、に答えた人に対し）

春秋の彼岸には各寺院で法要が営まれますが、それにあなたはあまりしますか。

- 1、春秋と 2、春秋かどちらかに 3、全くしない

Q 16、あなたのお家のお墓はどこにありますか。

- 1、京都市またはその近郊 2、郷里（都道府県名……）

- 3、両方にある 4、その他（ ） 5、なし

S Q 17、むかしから盆の季節になると墓まいりをする習慣がありますが、あなたはどの程度お参りしますか。

Q 17、あなたのお家には仏壇がありますか。

1、毎年する      2、時々する      3、ほとんどしない      4、全くしない

1、ある      2、ない

S Q 1 (あると答えた人に対し)

盆には仏壇をあげ、先祖の霊をまつる行事がありますが、あなたのお家はどうか。

1、毎年する      2、時々する      3、ほとんどしない      4、全くしない

5、わからない

S Q 2 “おしよらい迎え” といって、先祖の霊をわが家へ導いてくるため、昔から京都ではきまった寺院の

縁日へ行って仏壇の供物などを買ってくるようですが、あなたのお家ではそれをなさいますか。

1、毎年する      2、時々する      3、ほとんどしない      4、全くしない      5、わからない

S Q 3 (上で1、2と答えた人に対し)

では次のどこに行きますか。

1、東山の珍皇寺      2、六波羅密寺      3、千本釈迦堂      4、妙心寺

5、その他(寺の名を書く)      6、わからない

この小論で用いた調査資料は特にことわりのないかぎり、仏教大市民意識研究会(代表山岡栄一)の調査によっている。

この調査は京都市民の社会意識を調査するため、京都市中京区の竜池学区、明倫学区、本能学区、初音学区、柳池学区、生祥学区、日彰学区からサンプル五〇〇名、京都市右京区桂学区第二投票区、第二二投票区、第二三投票区から五〇〇名、合計一、〇〇〇名を選び、昭和四九年一月中旬に行なった面接調査である。面接担当は本学社会学部社会学科の学生があたり、その指導を社会学研究室の浜岡政好が行なった。

サンプリングは、大学院社会学専攻修士課程一回生の学生が四八年三月現在の選挙人名簿を用いて、上記の投票区から乱数表でスタート番号を決め、等間隔に被調査者を選びだした。

面接調査用の質問表は、同研究室、山岡栄一、野村博、加藤信孝が主として作成し、調査後の集計は社会学科の学生があたり、これを同研究室、大西正曹が指導した。

すべての関係者各位に感謝の意を表する。

(昭和五十年二月)